

ワクチンで予防できる子どもの病気

小児肺炎球菌ワクチン

【肺炎球菌感染症】

はいえんきゅうきん きんけつしょう
肺炎球菌による病気で、菌血症、肺炎、脳を包む髄膜が炎症を起こす細菌性髄膜炎などを起こします。髄膜炎は早期診断が難しいため重症になりやすく、重い後遺症を残したり死亡する例もあります。菌血症は髄膜炎の前段階であることが多いです。¹⁾

B型肝炎ワクチン

【B型肝炎】

B型肝炎ウイルスに感染しているお母さんから分娩時に感染するだけでなく、感染している父親や兄弟姉妹など周囲の人からも感染することがあります。子どもの場合は原因不明の場合もあります。肝炎になり、慢性化すると肝硬変や肝臓がんの原因になることがあります。^{1,2)}

ロタウイルスワクチン

【ロタウイルス胃腸炎】

乳幼児がかかりやすい病気で、感染力が強く、嘔吐おうとと下痢を繰り返すと脱水症になることがあります。けいれんや脳症を合併することもあります。^{1,3)}

5種混合(DPT-IPV-Hib)、4種混合(DPT-IPV)、3種混合(DPT)、2種混合(DT)

*DPT:ジフテリア・百日せき・破傷風、IPV:ポリオ、Hib:インフルエンザ菌b型感染症、DT:ジフテリア、破傷風

【ジフテリア】

ジフテリア菌がのどに炎症を起こす病気です。犬の遠吠えのようなせきが特徴で、重症になると呼吸困難や神経麻痺しゆじふん、心筋炎を起こし、死亡することもあります。^{1,4)}

【百日せき】

連続したせきが長く続き、急に息を吸い込むので笛を吹くような音をともなう呼吸困難、チアノーゼ、けいれん等が起こる病気です。乳児では無呼吸状態になることがあります。肺炎、脳症を併発することがあります。^{1,3)}

【破傷風】

はしょうふう
土の中にいる破傷風菌が傷口から体に侵入し、菌の毒素でけいれんを起こす病気です。顔の筋肉が硬直して引きつったような表情になり、口が開きにくくなるのが特徴です。重症になると強いけいれんで呼吸ができなくなることもあります。^{1,3)}

【ポリオ】

しょうにまひ
小児麻痺とも呼ばれます。かかって無症状か、かぜに似た症状だけですむ場合がほとんどですが、症状がでる場合は熱が下がった後に片側の手足に弛緩性麻痺を生じ、後遺症を残すことがあります。^{1,3)}

【Hib(インフルエンザ菌b型)感染症】

さいえんせい はいえんきゅうきん
インフルエンザ菌b型という細菌(※インフルエンザウイルスとはまったく別のもの)による病気で、細菌性髄膜炎や喉頭蓋炎こうとうがいえん、肺炎などを起こします。5歳までにかかることの多い病気です。髄膜炎は早期診断が難しいため重症化しやすく、重い後遺症を残したり、死亡する例もあります。^{1,5)}

BCGワクチン

【結核】

せきやたん、微熱などが長く続く病気で、体重減少や食欲不振、寝汗をかくこともあります。子どもの場合、症状があらわれにくく、重篤な結核につながる場合があります。赤ちゃんの場合は、粟粒結核や髄膜炎など重症になりやすく、後遺症が残ったり、死亡することもあります。^{1,5)}

麻しん・風しん混合(MR)ワクチン

【麻しん(はしか)】

熱、鼻水、せきなどの症状ではじまり、熱はいったん下がった後、再び上がります。特有の赤い発疹が顔から全身へ広がります。子どもでは重い病気で、かかると肺炎や中耳炎、脳炎を合併することもあり、死亡する例もあります。¹⁾

【風しん(三日ばしか)】

発熱、赤い発疹、首のリンパ節のはれの3症状が特徴の病気です。熱がでないことも多く、ふつうは3日程度で治ります。重症になると脳炎や血小板減少性紫斑病になることもあります。^{1,6)}

水痘ワクチン

【水痘(みずぼうそう)】

すいほうそう
強いかゆみのある赤い水疱をともなった発疹が全身にできる病気です。発疹は水ぶくれ、かさぶたへと変化します。脳炎や肺炎、皮膚の細菌感染症などを合併することもあります。^{1,3,7)}

おたふくかぜワクチン

【おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)】

たふせき じかせん
発熱とともに片方または両方の唾液腺(※耳の下からあごにかけての部分)、特に耳下腺がはれる病気です。ふつう1~2週間で治りますが、無菌性髄膜炎や脳炎を合併することもあります。治らない難聴になることもあります。^{1,3)}

日本脳炎ワクチン

【日本脳炎】

感染したブタから蚊がウイルスを運びヒトを刺し感染させ、脳炎を起こす病気です。ヒトからヒトへはうつりません。かかっても多くは無症状ですが、脳炎になると高熱、けいれん、意識障害がでます。いったんかかると治療法がなく、死亡や重い後遺症の危険性があります。^{1,3)}

インフルエンザワクチン

【インフルエンザ】

悪寒や発熱、頭痛、関節痛などの全身症状がみられる病気です。中耳炎、肺炎を合併することもあります。脳症を起こすと後遺症を残したり、死亡することもあります。^{3,8)}

新型コロナウイルスワクチン

【新型コロナウイルス感染症】

2019年にコロナウイルスの仲間になしく加わったサーズコロナウイルス2(SARS-CoV-2)による感染症です。新型コロナウイルスに感染すると、最初は普通のかぜと同じように発熱や咳、鼻水、のどの痛みなどがでます。多くは自然に良くなりますが、病気のあるお子さんや2歳未満では、重症になることがあります。⁹⁾

監修：新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学教室 教授 齋藤 昭彦 先生

1) 日本小児科学会：日本小児科学会の「知っておきたいワクチン情報」各論No.8-02、2024年4月1日改訂
http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/VIS_B-02haienkyukin_20240401.pdf 2023年4月24日参照
2) 国立感染症研究所：国内における小児の原因不明の急性肝炎について (第3報) 2023年2月16日時点の事例報告集計
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/jissekijpn/11902-3-2023-2-16.html> 2023年4月24日参照
3) 国立感染症研究所：予防接種情報 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/vaccine-j.html> 2023年4月24日参照
4) 厚生労働省 関西空港検疫所：疾患別解説 ジフテリア https://www.forth.go.jp/keneki/kanku/disease/dis03_05dip.html 2023年4月24日参照
5) 厚生労働省：予防接種情報 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/yobou-sesshu/index.html 2023年4月24日参照
6) 国立感染症研究所 感染症情報センター：麻疹とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/430-rubella-intro.html> 2023年4月24日参照
7) 国立感染症研究所 感染症情報センター：IASR Vol.25 p.322-324 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/25/298/dj2982.html> 2023年4月24日参照
8) 日本臨床内科医会：わかりやすい病気のはなしシリーズ33 「インフルエンザ」 <https://www.japha.jp/doc/byoki/033.pdf> 2023年4月24日参照
9) 日本小児科学会：日本小児科学会の「知っておきたいワクチン情報」各論No.8-14 2024年4月1日改訂
https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/VIS_B-14shingatakorona_20240401.pdf 2024年4月10日参照